

(要旨)

#### ◇方 法

2020年5月1日～8月19日に重症COVID-19による入院中にレムデシビルを投与されたすべての患者について、2020年8月に医療記録の後ろ向きレビューが実施された。レムデシビル、抗菌薬、回復者血漿、デキサメタゾン、または複数薬剤の併用を含む治療を受けた患者のサンプルが解析に含まれていた。レムデシビル投与患者では5日間の治療が行われた。糸球体濾過率30 mL/min未満、肝機能検査値が正常範囲の5倍以上、および妊娠中の患者はレムデシビルによる治療から除外された。男女差は、カイ2乗検定および独立標本t検定で検出した。臨床症状のアウトカムに影響する度合は、ステップワイズロジスティック回帰で解析した。

#### ◇結 果

レムデシビルを投与された患者76例の平均年齢は63歳[95%信頼区間(CI)[59.8～66.2]]、男性が36例(47.4%)、女性が40例(52.6%)であった。49例(64.5%)は白人で、27例(35.5%)は非白人であった。患者の多く(54人;71.1%)に少なくとも1つの併存疾患があり、高血圧が最も多かった(43例;56.6%)。レムデシビル投与患者の平均入院滞在期間は10.09日(95%CI[8.6～11.6])で、酸素療法を受けた平均期間は9.42日(95%CI[8.0～10.8])であった。レムデシビルを投与された合計14例(18.4%)の患者は、平均9.29日間(95%CI[5.6～13.0])ICUに入院した。レムデシビルを投与された女性は、ICUに入院する可能性が高かった[11人(27.5%) vs 3人(8.3%); $p=0.031$ ]。死亡した患者は14例(18.4%)で、男性(5例;13.9%)と女性(9例;22.5%; $p=0.33$ )の間に統計的有意差はみられなかった。酸素療法の期間(男性8.0日[6.2～9.8] vs 女性10.76日[8.8～12.8]; $p=0.051$ )または滞在期間(男性8.61日[6.7～10.5] vs 女性11.43日[9.3～13.5]; $p=0.058$ )において有意な性差はみられなかった。院内死亡率、ICUに入院した患者数、ICU滞在日数、酸素使用期間、または入院期間について、統合された人種グループ(白人と非白人)に統計的な有意差はなかった。

#### ◇結 論

レムデシビルは、地域社会での重症COVID-19の治療に臨床的有効性を示す可能性がある。これは限られた患者を対象とした小規模な研究だが、他の地域病院でのレムデシビルの使用に関する1つの判断基準となる。